



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第49回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

ルール編 コールド・ゲームの意味を中心にルール編のみの掲載です。

雨中の高校野球、「インニングは8回に入りました。既に試合は成立しています…」と実況のアナウンサー。試合の成立についてお尋ねします。

野球の正式試合は規則4・10に定める通常9インニングから成ります。それでも勝敗を決しない場合は延長戦として、さらに回を重ねるのが原則です。勝敗が定まった時点で球審の“ゲームセット／GAME SET、”が宣告され試合終了となります。

特別な理由で**球審がゲームセットを宣告した**場合は“コールドゲーム／CALLED GAME、”で正式試合です。(雰囲気的に“コールド／COLD、”などと勘違いをしないでください。)悪天候で試合の続行が不可能な場合などに適用されますが、「高校野球では規則4・10(c)の5回とあるのを7回に読み替えて適用する」ことが高校野球特別規則11に規定されています。従って、「7回が終わったので正式試合＝試合の成立」が上記のコメントになりました。

高校野球特別規則12では得点差に関して、「正式試合となるコールドゲームを採用する場合は、5回10点、7回7点と統一する。ただし、選抜高等学校野球大会ならびに全国高等学校野球大会では適用しない」とも明記しています。

正式試合は、規則4・11のとおり「試合終了時の両チームの総得点をもって勝敗を決する」こととなりますが、4・11(d)には「…コールドゲームは、球審が打ち切りを命じたとき終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する」とあります。続けて【注】には「我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣告したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで両チームが完了した最終均等回の総得点でその勝敗を決めることとする」と規定しています。

- (1) ビジティングチーム(=先攻)がその回の表で得点してホームチーム(=後攻)の得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

文章では解り難いかも知れませんが、規則書の10～11頁で14例を参考にしてください。但し、高校野球特別規則に従い、5・6回の部分を7・8回に置き換えて確認する必要があります。

“サスペンデッドゲーム／SUSPENDED GAME＝一時停止試合、は「後日その続きを行うことにして、一時停止された試合をいう」と規則2・75に用語説明があります。昨夏の全国高等学校軟式野球大会で50インニングが目撃されました。高校野球特別規則14ではサスペンデッドゲームを原則的に適用しないことになっていますが、夏休み後半に開催の大会でもあり(決勝戦を除く)特例です。

高校野球の「延長回数は15回までで再試合」となったのは1999(平成11)年でした。健康管理などを熟慮して「タイブレーク方式」の採用など、最良の方式が議論される昨今です。

